

2022年第6回 日本脊椎脊髄病学会・日本側弯症学会合同社会保険システム等検討委員会議事録

日時：2022年10月13日（木）18:00～18:35

場所：Web

出席依頼者

JSSR 担当理事 大鳥 副委員長 遠藤

JSSR（外保連委員会）手術：平井、坂井；実務：鈴木、牧、松倉；検査：坂井；内視鏡：高野；処置：平井、松倉；麻酔：牧

側弯症 手術：藤田、八木、実務：井上、宮城、処置：酒井大輔、検査：酒井大輔、麻酔：宮城

出席者（敬称略・順不同）：大鳥（理事）、平泉、青田、平井（委員長）、赤澤、細金、藤田、渡辺、鈴木、高野、坂井、宮城、八木、井上、牧、松倉

・理事会報告（大鳥先生より）

外保連試案における主学会につき、脳脊髄液減少症は、JSSR⇒日本臨床脳外科学会への移管をJSSR理事会で承認された。

またJOA 社保委員会からの提言で、脊椎側弯症手術（固定術・矯正術すべて試案ID81-00947000～950000）をJSSRから側弯症学会へ移管する方向を担当理事大鳥先生、側弯症学会宮城委員長とも確認した。

・令和6年度改訂に向けての要望項目の確認要望

新設

- 頭蓋頸椎移行部固定術（渡辺先生より）

論文ベースのエビデンスがあまりないとのことで厳しそう。

前回、根尾先生とも相談して要望作成したが出血量や手術時間など他の椎間と比べて有意に難度が高いというエビデンスを出すことがいまのところなく、以前提出したものを超えるものは厳しいか。

改正

- 椎間板内酵素注入療法（平井より）

レジストリをメーカーからもらってそれを使用する予定。

- 超音波凝固切開装置等加算の脊椎前方手術への適応拡大（現状、胸・腹腔鏡下手

術・悪性腫瘍等に係る手術、バセドウ甲状腺全摘）（牧先生より）

費用対効果の参考になる論文がなく厳しいかもしれないが、とりあえず出すこととする。

● **脊椎再手術・複数回手術加算（平井先生より）**

癒着剥離術として NSJ と相談して検討予定。

● **椎体形成術・後方固定術の併用加算（平井先生より）**

BKP+後方固定は現在、加算はできないが、骨セメント代金を除くバルーンなどの機材 33 万円は償還されている。担当がいないので、今後どなたかに依頼するかもしれない。

● **内視鏡下椎弓形成術の複数椎間加算（通則 14 の追加）（高野先生より）**

今回 3 回目でありなかなか厳しいかもしれないが、提出予定。

牧先生より、外保連実務委員会の会議で、複数回や多椎間加算は 1～2 年後に他外科学会と共同で足並みをそろえるといった話も出たとのこと。

平泉先生からアドバイス頂き、1～2 年後に他外科学会と併せて出すのも可能だが、open で認められているものが認められていないとの矛盾点があるので、他外科学系との足並みをそろえず、今回矛盾点を指摘しつつ、再度出す方向とした。

● **他項目について（平井先生より）**

以前話題になった、黄色靭帯骨化手術の加算は、実際には後方固定術がメインで行われることが多く、加算よりも固定術の方が高めの点数が確保できるので、新たな要望には加えない方向とした。

939-(4) 画像等手術支援加算について・患者適合型手術支援ガイドによるものは、NSJ との合同会議で検討し、秋田大学の先生に依頼する予定。

新設

● **ロボット支援手術の試案作成について（赤澤先生、平井先生より）**

7 施設に声をかけて、6 施設から仮試案データを集積した。江南厚生病院金村先生とご相談して 5 施設 50 症例の試案を作成する。赤澤先生（試案作成についてはプレゼン資料を赤澤先生、登録を坂井先生・委員会プレゼンは平井）11/15 までに登録を済ませる予定

（平泉先生より）人工関節学会のものを参考に資料を外保連に提出するのがよい。publish された論文等を用いて費用が掛かることや有意性（合併症が減らせるなど）アピールすると良いとのこと。

・JOANR データについて（平井先生より）

渡辺先生・谷口先生・牧先生にご協力をいただき、とくに術時間の下限につきまして適正な提案を頂いた。

JOA から提案された下限時間で違和感があるのは、K133-2OPLL 前方手術、側弯症固定・矯正術、髄内腫瘍摘出術が 10 分未満であった。JOANR データベース上、入力ミス高難度手術を行っている 4 施設データから、100 分未満でも違和感があるものをいくつかピックアップして JOA へ提出した。今後再度 JOA から問い合わせが来るかもしれないがご協力をお願いしたい。

なお診療報酬改定時の要望に JOANR データを JSSR 社保委員会から借用して、社保委員会に有益となるデータ供与をしてもらうことは今後可能と思われる。

・その他の議題（平泉先生より）

2022/10/12 外保連手術委員会にて K 番号が同一であっても内容が大きく違うものがあり（例：人工関節（肩・股・膝）など）、今後 K 番号の整理が必要となるとのこと。JOA としては、部位別各学会から代表者を出して 5～7 名で討議を行うこととなると思われる。

次回の日本脊椎脊髓病学会・日本側弯症学会合同社会保険システム等検討委員会は、12/21(水)に予定となった。